

【学校教育目標】 「自主・不屈・創造」の精神を身につけ、志を持ち社会にはばたく児童生徒の育成		【本年度の重点目標】 ○表現力の育成：自分の考えを適切に表現できる児童生徒の育成 ○郷土を愛する力の育成：学校や地域に愛着を持ち、地域や社会とのかかわりを意識し行動できる児童生徒の育成 ○相手を尊重し合う言動力の育成：周りの人を尊重し合う言葉づかいと行動ができる児童生徒の育成								
【4－大変よい 3－よい 2－努力を要す 1－すぐに改善】										
領域	項目	自己評価	学校関係者評価	学校関係者評価を踏まえた改善策						
学校運営	【取組】 ○ 意図的・計画的な組織運営体制づくり(常設委員会、校務分掌部会、諸会議等) ○ 毎月の自己評価(教職員)を基にした教育活動の質の向上 ○ 前期・中期・後期の学力向上プランの推進 ○ 学校の諸問題を組織的に解決していく風土づくり	3.0	【2.9】 * 学力向上の傾向が見えてきたので、このままじっくりと今の方針を継続してもいいのではと思います。 * 異学年交流や体験活動、いじめ対応や不登校支援まで、多岐にわたり指導体制が行き届いています。今後もチーム学校として、子どもたちのために一丸となって取り組んでください。	◇ 学力向上・保障委員会や研究推進委員会のメンバー等を再編し、協議・決定した取組を全学級へ届ける体制を構築していく。 (研究推進委員会) (学力向上・保障委員会) ◇ 近接学年会を前期課程に位置付け、チームで課題解決に取り組んでいく。(近接学年会)						
	【結果】 ○ 義務教育学校における協働体制の構築が進んでいる。 ○ 毎月、毎学期ごとの評価及び改善策の構築が進んでいる。 ○ 各発達段階に応じた学力向上プランの実践ができた。 ○ さまざまな課題を通して職員の研修意識が高まってきている。 ● 学力向上や人権・同和教育等の職員の研修を充実していく。									
総合所見		教職員一人一人に「チーム学校」の意識をもたせ、義務教育学校としての組織的・協働的実践をさらに図っていく。								
教育課題(重点目標・土台づくり)	重点目標 学び・夢・心	【取組】 ○ 「授業スタンダード」に基づく授業づくり ○ 教科担任制・乗り入れ指導 ○ 目的に応じた行事・異学年交流 ○ 体験・交流・発信を軸としたふるさと学習の充実	3.1	【2.9】 * 昨年度から本年度にかけて、全体的に学力が向上しています。分かりやすくきめ細やかな指導が行き届き、徐々に成果が出てきていると考えられます。 * 周りの人を尊重し合う言葉遣いについて、教員、児童生徒、保護者が高い意識で取り組んでいると思います。						
	学習規律・学習習慣	【取組】 ○ 「学校のきまり」「生徒指導のきまり」に基づく学習規律の徹底指導 ○ タブドリ(AIドリル)等を活用した家庭学習の充実 ○ メディア・コモンの整備と活用の推進			2.9	【2.9】 * ICTの活用が進んでいる感じがします。新しい学習の方法をどんどん取り入れてほしいと思います。 * SNS等の普及により、読書活動の充実が難しい状況だと思えますが、児童生徒が興味を持てる働きかけを継続してください。				
	思いやりの心・規範意識	【取組】 ○ いじめ・生活アンケートの実施による児童生徒の実態把握及び交流、早期対応の実施 ○ 児童生徒会による「あいさつ運動」の充実 ○ 校則による生徒指導の徹底					3.2	【2.8】 * 教員のいじめに対する認識が高く、細かい見取りができているところは評価できます。 * いじめ事案の件数が多い。もう少し具体的な中身を教えてください。 * 朝の登校時、元気に挨拶をする児童生徒が少ない気がします。		
	生活習慣・体力向上	【取組】 ○ 児童生徒の実態に応じたメディア教育の実施 ○ ノースマホ・ノーゲームの実施 ○ コオーディネーション・トレーニングの実施(前期課程)							3.0	【3.0】 * 体力づくりについては、運動場や体育館で活動できる環境づくり(時間の工夫も含めて)を進めてください。 * 各学年の周回目標を定め、運動場をランニングさせて体力の強化を図ってはどうか。
	総合所見	各分野の課題を早期に発見し、課題解決に向けた取組が実践できるように、校務分掌の各部・各係に働きかけていく。								
【結果】 ○ 落ち着いた学習に取り組む雰囲気ができつつある。 ● 学習規律が崩れている学級もあるので、学習指導力や学級経営力を向上する組織的な支援体制づくりが必要である。 ● 読書をする時間の保障や読書のさらなる奨励が必要である。										
【結果】 ○ 毎週実施した生徒指導会議やいじめ対策委員会等における実態把握、それに基づく組織的対応が機能しつつある。 ● いじめの認知件数が大幅に増え、特に前期課程でのトラブルが多い。 ● 校則に理解を示さない保護者に対して粘り強く理解を求めていく。										
【結果】 ○ 基本的な生活習慣の意識向上が図られてきた。 ● 体力向上の取組が十分に実施されていない。										
安全・開かれた学校づくり	【取組】 ○ 避難訓練(火災・地震)、防犯訓練の実施 ○ 学校通信・学年学級通信の定期発行 ○ 「テトル」による学校行事等の連絡、不審者情報発信及び注意喚起 ○ 「報・連・相」を軸とした迅速な対応・積極的な生徒指導	3.2	【3.5】 * 地域と連携して、登校時の見守りを行ったり、避難訓練では教室等の施錠をしたりする等、安全確保に向けた取組が充実しています。 * 学校からの情報提供は、保護者の評価も高いので、今後も継続してください。	◇ 通学路の安全確保のために、危険箇所点検と改善要求を積極的に行っていく。(安全教育係) ◇ さまざまな課題を抱えている児童生徒や保護者を専門性の高い関係機関とつなげていく。 (生徒指導委員会) (不登校支援委員会)						
総合所見	コミュニティ・スクールを中心に、地域と一体となった開かれた学校づくり、安心・安全な学校づくりに努める。									